

本科 2 期 9 月度

解答

Z会東大進学教室

選抜東大英語

東大英語



14章 総合問題14

問題

【1】

解答

1 c 2 e 3 a 4 d

解説

まず空所以外の段落の要旨をそれぞれ見てみることにする。

- 第1段落「科学の真理は本来、人間の生命を高めるために応用されるものである。」
- 第3段落「軍は死を志向し、軍によって支配されている社会も死を志向する。」
- 第5段落「軍が生物学者の発見を人殺しの道具に変えてしまった例。」
- 第7段落「筆者の発見したアスコルビン酸の軍事的用途。」

次に選択肢になっている段落の要旨を見ていく。

- a 「軍中心の社会は死を志向する社会である。」
- b 「軍事費と社会の向上のための支出の対照的な関係を如実に示すある新聞記事。」
- c 「科学は生命を志向する。」
- d 「世界中の人々が協力して政府間の軍事的謀略に立ち向かうことを望む。」
- e 「生命を高めることを意図した科学の成果は、軍隊によって、生命を破壊する道具と
なっている。」

以上が各段落の要旨である。それでは次に、空所に選択肢のどの段落が入るのかを検討していこう。

(1) 空所1の検討

第1段落では、科学が人類に役立つということが述べられていたが、空所1の後ろの第3段落は *contrary to this* (これに反して) で始まり、「軍隊は死を志向するものである」と述べられている。よって空所1には、*this* の内容、つまり、第1段落に続いて「科学が生命への志向を持つ」といった内容が入ることがわかる。ここで **c** を見ると、最終文に *Science is life-oriented.* (科学は生命志向である。) とあり、またそれ以前の内容も科学の真理が人間の生命を高めたといった内容で、第1段落の内容に自然につながり、また、第3段落の *contrary to this* にも自然につながる。他の選択肢はどれも合わない。よって、空所1には **c** が適当。

(2) 空所2の検討

第3段落では、軍隊は「死への志向」を持つことが述べられ、空所2の後ろの第5段落では、軍隊が科学を生命を破壊するために用いている例が述べられている。ここで選択肢を見ていこう。**a** の第1文「このことにより軍中心社会は、死を志向する社会となる」は、第3段落の最終文にうまくつながらない。また、ここは「軍事費」と「社会の向上のための費用」とを対比させる文脈ではないので **b** も入らない。**d** は「政府が援助する世界の『軍事的謀略』に対して革命を起こし、協力し合うことを望む」

という本文のまとめ的な内容でやや唐突であるが、保留にして **e** を見ると、「生命を高めることを意図した科学の成果は、軍隊によって生命を破壊する道具となってしまう」とあり、この内容は、第3段落とも第5段落とも自然につながる。よって空所2には **e** が適当。

(3) 空所3の検討

空所3の前の第5段落では「軍によって人殺しの道具に変えられてしまった科学の成果」について述べられているが、ここで残る選択肢からまず **a** を見てみよう。「このこと」によって軍中心の社会は死を志向する社会となる」とあり、「このこと」が第5段落の全体を受けていると考えることができるので、空所3に入りそうである。**a** の第2文以降では、神経ガスによって実際に羊が死んだ例を出し、それがもっと大規模なものだったら人類の絶滅もあり得るのではないかと述べられており、第1文を具体例とともに説明したものとなっている。**a** を保留にして他の選択肢も念のため確認しておこう。**b** の内容はやはりここでも唐突である。**d** が入るとするとまとめ的な内容の後に再び第7段落の具体的な内容が続くことになり、不自然である。よって **a** が最適。

(4) 空所4の検討

本文の最終段落であるので、まとめとなるような内容がくると予想できる。残る選択肢から **d** を入れるのがよさそうである。これを入れれば空所4直前の第7段落最終文で語られている核兵器を用いた最終戦争後の絶望的なイメージに続けて「政府が援助する世界の『軍事的謀略』が反発を呼ぶことが唯一の希望である」と述べることになり、うまくつながる。よって正解は **d**。

ちなみに、使用しなかった **b** の意味は次の通りである。**b** 「最近のニューヨーク・タイムズ紙の第一面に、軍事費と我々の社会の向上のために使われる費用の関係がよくわかる、2つのコラムが並んで掲載された。1つは、風疹のワクチンが開発されたというちょっとした科学的発見を報じたものであり、このワクチンのおかげでこの国だけで年間3万人の命が助かるだろうというものであった。」

全訳

科学が最重要目標とするところは、真理の発見、新たな真理の発見である。そこでの探求は、その現実的な使用や応用の可能性にかかわらず、真理のための真理の発見という方向へと向けられていなければならないほど、より一層功を奏する。とは言うものの、新しい真理や知識は常に人間の生命を高め、たいいてい現実的に応用される。概して言えば、新しい真理が原理的で奥深いものであればあるほど、その現実的な使用の可能性は一層大きく、またより重要なものとなる。事実、生命そのものを含めて我々が持っているものすべてがあるのは、科学、研究のおかげなのである。もし研究によってもたらされたものが取り去られるならば、文明は崩壊し、(我々は原始の時代に戻り) 無防備な姿で再び洞穴を探ることになるだろう。

c いかなる形の応用もできないという意味で純粋な真理でさえも、人間の生命を高める。(例えば、) 実際の観点からすれば、地球が太陽の周りを回っているように、太陽が地球の周りを回っているようにまったくどうでもよいことである。とは言うものの、ガリレオやコペルニクスは、彼らの発見によって人間の存在をより高い水準に引き上げた。それと同じことが、いつか月への打ち上げについても言われることになるだろう。科学は生命を志向するものなのである。

これに反して、軍隊や軍備は死を志向するものである。軍隊は組織された殺人の道具である。軍隊がどのように使われようと、たとえそれが防御のために使われようと、攻撃のために使われようとである。軍隊が用いる道具はそれが銃であれ、爆弾であれ、ナバーム弾であれ、戦車であれ、ミサイルであれ、爆撃機であれ、毒ガスであれすべて死をもたらすための道具である。それらはすべて殺人のための道具であることに変わりはない。だから軍隊は死を志向するものであり、軍隊によって支配されている社会は、死を志向する社会なのである。それはジョージ・ワルドの有名な「モラトリアム・スピーチ」において指摘されていることである。

e 道具は建設のためにも破壊のためにも使われる。それらは、生命を高めるためにも破壊するためにも使われる。道具がより強力であればあるほどそれは生命をより高める。しかし同時に殺人行為や破壊行為もより広汎な形で遂行され得る。生命を高めることを意図した科学の成果は、軍隊によって生命を破壊する道具となってしまっている。

我々生物学者は、人間の神経組織の働きに関する目覚ましい知識を得た。軍はこの知識を神経ガスの生産に使った。我々は病気の、特に伝染病の性質についての称賛すべき知識を獲得した。軍はこの知識を、細菌戦用の兵器を完成させるために使った。我々は植物の生態に関する見事な知識を完成させた。軍はこの知識を用いて枯れ葉剤を生産した。我々は原子が持つ隠されたエネルギーを、生命を高め、つらい労働をなくすために明らかにした。軍はこの知識を用いて原子爆弾、水素爆弾を生産した。これらを用いれば軍は人類を全滅させることができるのである。

a このことによって軍を志向する社会は、悲しい運命〔破滅〕へと向かう死を志向する社会になるのである。ユタ州のスカル・バレーの上空で、神経ガスを散布する軍の飛行機が風向きと高度の計算を少し間違えた後のある日の朝に発見された、6300頭に及ぶ羊の屍のように我々もいつの日かなるのかもしれない。その誤りは非常に小さなものであったので、軍はその誤りを見つけるのに苦労し、最初は軍の責任を否定したほどである。これがもっと大規模な事故であったらどうだろうか。あるいは、敵対する軍隊が彼らの致命的な毒ガスの栓を故意に開いたり、その毒ガスを搭載したミサイルを発射したりする戦争の場合ならどうであろうか。

私が、アスコルビン酸（ビタミンC）を発見した時、私は、自分がいかなる意味でも決して人殺しにはつながらない、科学上の発見に貢献し得たことを誇らしく思った。しかし、私の自信は長くは続かなかった。ある日ある工場を訪れたところ、私はひとまとめにされた大型の容器に気がついた。そして、その中には精製以前のアスコルビン酸が入っていると聞かされた。それらはドイツの潜水艦に積まれ、乗組員が壊血病にかかることのない状態で何ヶ月もの間海にとどまり、死を扱う任務に携わることを可能にしているのだということであった。我々はもうすでに十分膨れあがった軍事予算をさらに上積みするために、科学や文化の進歩のために必要な予算を絶え間なく削りに削っている。死を志向する社会を救うのは難しい。原子爆弾を用いる戦争において幸運な者と言えば、最初の一発の爆発で死ぬ者だけだろう。

d 我々の唯一の希望は、政府が援助する世界の軍事的謀略が反発を呼ぶことである。すなわち世界中の民族がそうした軍事的謀略に対して革命を起こし、お互いに手と手を伸ばし合うことである。我々は現代科学がもたらす素晴らしい道具とその可能性を利用することによってよりよい生活を創り出すことができるようになる。しかしその前に、すべての軍隊と、

軍隊を支持するあらゆる強硬論者と手を切り、追い払い、破壊的兵器の狂信的な愛好者を追い払わねばならないのである。

注

本文

ℓ. 1 ◇ This search is the more successful the more it is directed ... for its own sake
○ ‘the + 比較級 + S + V ~, the + 比較級 + S' + V' ...’ (～すればするほど...) という比較級の頻出構文の変形である。The more this search is directed towards ... for its own sake, the more successful it is. が本来の形。

ℓ. 3 ◇ application 「応用」

ℓ. 4 ◇ fundamental 「基本的な；根本的な」

ℓ. 5 ◇ abstruse 「深遠な；難解な」

ℓ. 6 ◇ everything we have, including life itself, we owe to science, to research
A B

○ owe A to B (A は B のおかげである) という表現の A が前に出た形。

◇ If everything...were to be taken away, civilization would collapse and we would stand ...

○ 仮定法の構文。were to ... は ‘未来の実現可能性が比較的乏しい仮定’を表す。

選択肢 c

◇ irrelevant 「無関係の」

◇ moonshot 「(宇宙船の) 月への打上げ」

本文

ℓ. 9 ◇ armament 「武器；軍備」

ℓ. 10 ◇ manslaughter 「殺人」

ℓ. 11 ◇ napalm 「ナパーム爆弾」

ℓ. 18 ◇ bacteriological warfare 「細菌戦」

ℓ. 19 ◇ defoliant 「枯れ葉剤」

◇ disclose ~ 「～を明らかにする」

ℓ. 21 ◇ wipe out ~ 「～を皆殺しにする [全滅させる]」

選択肢 a

◇ altitude 「高さ」

◇ -laden 「～を積んだ」

本文

ℓ. 22 ◇ ascorbic acid 「アスコルビン酸 (ビタミン C)」

ℓ. 25 ◇ crude 「天然のままの；精製していない」

◇ preparation 「(薬の) 調合；調合薬」

ℓ. 28 ◇ appropriation 「予算割当額」

◇ swollen 「腫れ上がった」

選択肢 d

◇ conspiracy 「謀略；共同謀議」

【2】

解答

「全訳」の下線部参照。

全訳

我々と人生において出会う書物との関係は、不可思議なものである。ある書物に我々は夢中になるが、それはそれらの書物が適切な事柄を適切な時期に語ってくれたからである。またある書物は、我々とは永遠に無縁のものとなってしまうが、それはそれらの書物と出会った時に、我々の側にそれらを受け入れる準備ができておらず、そうして我々はそれらと再び巡り合う運命にないからである。

注

- ℓ. 1 ◇ come across = find or meet by chance
◇ a mysterious one = a mysterious relation
◇ Some (books)
○ fall in love with の目的語である some が、後続する others との相関関係から文頭にシフトされた形。
◇ some ~ others …
○ others = other books
- ℓ. 3 ◇ cross someone's path = meet someone by chance
○ path = a way or track
◇ chance = U the happening of events without any cause that can be seen or understood; the way things happen 「偶然；運；巡り合わせ」※ chance は東大で頻出する多義語
- ℓ. 4 ◇ a second = another 「もう1つの」

【3】

解答・解説

- (1) make [× give]
○ make an impression on someone
○ make an impression on ~ = impress ~
- (2) 「全訳」の下線部⑥参照。
◇ Among ~ : 場所を表す副詞句が文頭に置かれたための倒置。
◇ topics (that) we discussed over lunch …
○ over lunch 「昼食をとりながら」
○ over = while having, eating, etc.; during
◇ the regrettable habit (that) film directors then had of altering …
○ of altering …は the regrettable habit …を修飾
○ alter = change; modify; vary
◇ plot ≡ story
◇ to the extent (even) of ~ 「～の程度に(さえ)至るまで」

- ◇ change A into B
- ◇ one = an ending
- (3) 「全訳」の下線部◎参照。
 - stick to = follow; keep to 「～に対して粘着する；従う」
cf. *sticker* (名詞)
 - as it is written : as は接続詞で the end を修飾。
- (4) I don't consider *The Magician* to be one of my better works.
- (5) ア of
 - take advantage of = make use of 「～の有利さを手に取る」
 - イ to
 - contribute A to B = write (articles, etc.) for B
 - contribute 「～を付与する」
 - ウ in
 - a case in point = a clear or typical example 「ツボにはまった事例」
cf. *to the point* = appropriate (要点を指し示して)
 - エ for
 - famous (at that time) for
 - オ at
 - at present = at this time; now
 - カ for
 - for (no better) reason

全訳

青年時代に、フランス南部のある友人宅で、私はサマセット・モームに初めて会った。1週間後に彼が寛大にも私からの昼食への招きに応じてくれた時、私は何とかして彼に好印象を与えたいと望んだ。と言うのも、彼に取材して、私がイングランドの著名人の寸描を寄稿していたあるアメリカの雑誌のためにその機会を利用することを認めてもらいたいという希望を持っていたからである。⑩我々が昼食をとりながら話し合った話題の中には、当時の映画監督が行っていた、原作の筋を自分たちの都合に合うように変更してしまうという嘆かわしい慣行のことがあった。それは悲劇的な結末をハッピー・エンドに変えてしまうというほどのものではなかった。そして私は格好の実例を持ち出すことができた。と言うのも、その前日にこの恥ずべき慣行について他の誰でもないレックス・イングラムと話し合っていたからである。

イングラム氏は当時、ルドルフ・バレンチノ主演の『黙示録の四騎士』やラモン・ナバロ主演の『ゼンダ城の虜』といった作品で有名な映画監督であった。彼はその時ニースで、ある邪悪な奇術師が出て来る小説を映画化していた。彼は自分が契約していたある俳優に主役を演じさせるための手段として適当であるというだけの理由で、その小説の映画化する権利を買い取っていた。

「原作はまったくもってひどい。ヒロインの死で終わる単なる通俗劇に過ぎない。しかし私はそれをハッピー・エンドにした。それぐらいしか手の施しようがなかったのだ。」とイ

ングラムは言った。

私は、ハッピー・エンドとはいささか陳腐に過ぎやしないかということについて何かを言った。

「いや、まったく同感だ。」とイングラムは即答した。「しかしそれならば一流の原作、悲劇的な結末を正当化する何らかの美点を持った作品が必要だ。本格的な小説を映画化する場合、◎私は当然のことながら書かれている通りの結末に従う。しかし今私が監督している小説のような安っぽい通俗劇の場合、それをどう変えようがまったく問題でないのだ。」

その映画監督の辛辣な言葉を繰り返して言いながら、私はそれを言わずにおけばよかったのだという事実が気が付いてはいなかった。

いささか冷淡にモーム氏は言った。「実際に、私も『奇術師』が私の出来のよい方の作品の1つだとは思いません。」

注.....

- ℓ. 1 ◇ (William) Somerset Maugham 「(ウィリアム・) サマセット・モーム」英国の小説家 (1874 ~ 1965)。
- ℓ. 2 ◇ graciously < gracious = kind, polite and generous
< grace 「優美；上品」
- ℓ. 3 ◇ in the hope that … 「…という希望を持って」
- ℓ. 5 ◇ which : 先行詞は an American magazine。
- ℓ. 8 ◇ cite = mention (as an example) ; quote 「～を引用する」
- ℓ. 9 ◇ having (the previous day) discussed ~ : 完了分詞構文
◇ none other than ~ 「～以外の何者でもない者」
◇ Rex Ingram 「レックス・イングラム」1920年代の映画監督。
- ℓ. 10 ◇ famous … : a director を修飾
○ production = product
- ℓ. 11 ◇ apocalypse = revelation (of the end of the world) 「啓示；黙示」
◇ Rudolf Valentino 「ルドルフ・バレントィノ」1920年代の映画俳優。
◇ Ramon Navarro 「ラモン・ナバロ」1920年代の映画俳優。
- ℓ. 12 ◇ sinister = suggesting evil; wicked 「悪を連想させる；邪悪な」
◇ that : 先行詞は a novel about a sinister magician
- ℓ. 13 ◇ for no better reason than ~ 「まさしく～の理由で」
◇ star = have ~ as a main performer 「～を主演させる」
- ℓ. 14 ◇ an actor (that) he had under contract
○ an actor は have の目的語。
○ contract = formal agreement
cf. general contractor (総合請負業者；ゼネコン)
- ℓ. 15 ◇ no … whatever = no … at all
- ℓ. 16 ◇ It was the only thing to do. 「それがその唯一の為すべきことであった。」
- ℓ. 17 ◇ I mentioned something about happy endings being …
○ happy endings が動名詞 being の意味上の主語となる。

- cf. She complained of the room *being* too small.
 = She complained that the room was too small.
- ◇ a trifle = to some degree; rather; somewhat
 < trifle = a thing of slight value 「些細なこと」 cf. a little
- ◇ banal = commonplace; uninteresting 「平凡な」
- ℓ. 18 ◇ be quick to … 「すぐに（急に、ためらわずに）…する」
 ◇ rate = class; rank
- ℓ. 19 ◇ a (serious) piece of fiction
 ○ fiction : 不可算名詞
- ℓ. 20 ◇ with = in the case of
 ◇ the one (that) I am directing …
 ○ one = (a) piece of fiction
- ℓ. 21 ◇ how one alters it
 ○ doesn't matter の主語。matter = be important.
 ◇ not in the least = not at all
- ℓ. 22 ◇ I'd have done …
 ○ 仮定法。to leave them unsaid が条件。
- ℓ. 24 ◇ somewhat = to some degree; rather; a little
 ◇ *The Magician* 『奇術師；魔術師』（1908）

【4】

解答

「全訳」の下線部参照。

全訳

たとえ彼自身が貧困から這い上がり、43歳で死ぬ前にある重要な地位に就いていたとしても、このことは、私が思うに、後に名を成す貧しい少年たちの大半がその成功を負うところのあの野心によるものではなかった。彼は、私が判断し得た限りでは、これまでに生きたいかなる者にも劣らず、その「野心」という言葉が通常示す意味での野心とは無縁であった。たとえ彼が地位から地位へと出世したとしても、それは彼が無理矢理に他人を押し退けて雇い主たちの注目を集めたからではなく、雇い主たちの方が彼を昇進させることを主張したからであった。彼は生得的に何かを創造する能力を身に付けた人間、すなわち自分の想像力を用いて人生を切り開いた人間で、1皿の銀貨に混じった1枚の金貨がそうであるように、凡庸な者たちの間では異彩を放たずにはいられなかった。

注

- ℓ. 1 ◇ if … rose … filled … : 直説法
 ○ poverty < poor
 ○ fill = hold
- ℓ. 2 ◇ due to = because of; owing to
 ◇ that ambition to which most poor boys … owe their success

- which の先行詞は that ambition
 - < owe their success to that ambition
- owe A to B 「A に関して B のおかげをこうむる」
- ◇ who afterwards achieve eminence
- who の先行詞は most poor boys
- eminence < eminent = remarkable; outstanding
- ℓ. 3 ◇ so far as … = to the extent that … : 挿入句
 - ◇ as free … as any man …
 - as … as any 「どれにも劣らず…で」 ※ 最上級の意味合いはない
 - free from = without; untroubled by
- ℓ. 4 ◇ in the ordinary sense of the word 「その語の通常の意味において」
 - ambition を修飾
 - the word = ambition
- ℓ. 5 ◇ thrust A on B = force acceptance of A on B
 - < thrust = push (with force)
- ℓ. 6 ◇ insist on …ing = demand to …
 - ◇ promote = raise (someone) to a higher rank
 - cf. promotion* (販売促進活動)
 - ◇ naturally = by nature = innately
 - by = concerning
 - ◇ a man of creative energy
 - of = having
- ℓ. 7 ◇ and (he) could no more help being conspicuous ~ than …
 - < cannot help …ing + no more A than B の組み合わせ。
 - cannot help …ing 「…せざるを得ない」
 - help = avoid
 - no more A than B 「B でないのと同様に A でない」
 - conspicuous = easily seen; clearly visible
- ℓ. 8 ◇ ordinary = commonplace; boring
 - ◇ in a plate of silver (coins)
 - “a plate of silver” 「多数の凡庸な人間の中の一個の傑出した存在」という記述の形容としては「多数の銀貨の中の 1 枚の金貨」と捉える。これを「1 枚の銀製の皿」とするのは誤り。
 - cf. sovereign in a plate of silver* (鶏群の一鶴)
 - sovereign = gold coin

[5]

解答

Part A

Day	Time	Planned Activity
Today	6:30 P.M.	Make reservations for dinner
Today	7:30 P.M.	Have dinner at a/an <u>Italian restaurant</u>
<u>Tomorrow</u>	10:00 A.M.	<u>Have/eat breakfast</u>
<u>Tomorrow</u>	12:00 noon	Go to a/an <u>art museum</u>
Tomorrow	1:30 P.M.	Eat lunch at a <u>coffee shop</u>
Tomorrow	6:00 P.M.	See a <u>Broadway musical/show/production</u>
Tomorrow	8:30 P.M.	Have dinner at a/an <u>Chinese restaurant</u>

Part B

- (1) F (2) T (3) T (4) T (5) F
(6) T (7) F (8) F (9) F (10) F

Script

CD 1 1 ~ 3

W : Oh, isn't this a lovely room?

M : For \$250 it ought to be. What a ridiculous waste of money.

W : George! Don't be like that. It's a gift from our children. They wanted us to do something special for our silver anniversary, so they booked us a room in the hotel
5 where we spent our honeymoon. They even managed to get the same room.

M : Now how could they know it's the same room after twenty-five years?

W : Because I told them the room number. Did you think that I would forget? Stop complaining. It isn't as though you have to pay for it.

M : I know that. But I'd have been just as happy with something more reasonable. I've
10 never spent money like that in my life. I don't know where they get the money to pay for all this.

W : But that's just the point. They wanted to give you something you would never treat yourself to. Relax and enjoy it. The children appreciate how hard you work ... even though you're such a grouch.

15 M : I suppose so. Anyway, what do you want to do for dinner tonight?

W : Do you think Victor's is still open? You know, the place where we went on our wedding night?

M : I don't know. I'll check the yellow pages. Let's see ... Chinese ... continental ... Cuban. Here we are. Victor's ... Victor's No, it's not here.

20 W : It must have closed down. What a shame. I loved that place.

M : Well, honey, it *has* been two and a half decades. There are a lot of other Cuban restaurants listed here, though.

W : But I wanted to go somewhere that we know. You know, for the memories. [Pause] What about that place in Chinatown?

25 M : Oh yeah, I remember. Peking something or other ... Ah! Here it is. Peking Duck House. They've got a big ad now. Must be popular. They've got a five-star rating from the *New York Times*. Shall I call and make reservations?

W : Mmm, I don't know. I really feel like something European. Something that would go well with a nice bottle of wine.

30 M : Or champagne? I know. I'll look up Italian. Here it is. Remember Benito's in Little Italy?

W : Oh yes, that would be perfect. The atmosphere was so romantic.

M : OK. We can have Peking duck tomorrow. By the way, what are we doing tomorrow?

W : We have tickets for a Broadway show that starts at six. I'd like to take it easy

35 during the day so we won't be too tired and fall asleep in the theater. Why don't we have a late breakfast at the Parkside Café around ten. Then we can take a walk through the park and spend an hour or so at the Metropolitan Museum of Art.

M : OK, let's go to the museum at twelve and have lunch at 1:30. How about at the coffee shop down the street from the museum?

40 W : All right. Just a sandwich and coffee would be fine.

M : Do you want to do some shopping after that?

W : Not especially. I'd rather come back here and rest before the show.

M : Me too. How long is the musical?

W : Two hours.

45 M : Then let's make a reservation in Chinatown for 8:30.

W : Sounds perfect. I'm sure we'll be ready for a big meal by then.

M : Do you want to go somewhere afterward? We could go to a jazz bar in Greenwich Village.

W : That sounds fun, but we can decide tomorrow.

50 M : Then could you call and make the reservations at Benito's for 7:30 tonight, honey? It's 6:30 now and I want to get a quick shower and change my shirt before we go. I won't be long.

[593 words]

全訳

W : まあ、すてきなお部屋じゃない？

M : 250ドルもするのだから、当然だよ。まったく、金の無駄遣いだよ。

W : ジョージ、そんなこと言うものじゃないわ。子供たちからのプレゼントなのよ。私たちの25回目の結婚記念日に何か特別なことをしてほしくて、私たちがハネムーンで泊まったホテルの部屋を予約してくれたんじゃない。それも、あの時と同じ部屋をとってくれたのよ。

M : 25年も経ってるのに、どうして子供たちに同じ部屋だとわかるんだ？

W : 私が部屋の番号を教えたのよ。私が忘れると思った？ もう文句を言うのは止めて。あなたがお金を払わなくちゃいけないわけじゃないんだから。

M : わかってるよ。ただ、もっと手頃なプレゼントでも十分嬉しかったけどね。今までにこんなふうにお金を使ったことなんかないよ。これ全部にかかるお金をあの子たちはどこで手に入れるんだか。

W : でも、だからこそなのよ。子供たちはあなたが絶対に自分ではやらないようなことをプレゼントしたかったのよ。ゆっくり楽しみましょう。あなたがどんなに一生懸命働いているか、子供たちはよくわかっているのよ。あなたはそんなふう不平ばかり言ってるけれど。

M : そうだな。ところで、夕食はどうする？

W : Victor'sはまだやってるかしら？ ほら、結婚式の夜に行った店よ。

M : どうだろう。イエローページで調べてみよう。ええと、中華…コンチネンタル…キューバ料理。ここだ。Victor's...Victor's... いや、ここには載ってないな。

W : きっと閉店しちゃったのね。残念だわ。あそこは大好きだったのに。

M: まあ、なにせ 25 年も経っているからな。でも、他にもキューバ料理店はたくさん載ってるよ。

W: でも、どこか知っているところに行きたいわ。だって記念日だもの …Chinatown のあそこはどうかしら？

M: ああ、覚えてるよ。Peking 何とか、っていう…ああ、あった！ Peking Duck House だ。今では大きな広告を載せているよ。流行ってるみたいだな。ニューヨーク・タイムズ紙で 5 つ星の評価をもらってる。電話して予約しようか？

W: うーん、どうかしら。何か洋風なものが食べたいわ。おいしいワインによく合うような。

M: あるいはシャンパンとか？ わかった。イタリア料理を見てみよう。あったぞ。リトル・イタリーにある Benito's を覚えてる？

W: ああ、そうね。あそこがいいわ。雰囲気がとてもロマンティックだったもの。

M: よし。北京ダックは明日にしようか。ところで、明日は何をする？

W: 6 時に始まるブロードウェイのショーのチケットがあるのよね。疲れて劇場で眠ってしまわないように昼間はゆっくりしたいわ。10 時頃 Parkside Café で遅めの朝食はどう？ それから公園を散歩して、メトロポリタン美術館で 1 時間くらい過ごすの。

M: いいよ、12 時に美術館に行って、1 時半に昼食にしよう。美術館からちょっと行った所にある喫茶店はどうだい？

W: いいわよ。サンドイッチとコーヒーだけでいいわ。

M: その後ちょっと買い物でもするかい？

W: 特にいいわ。ここに戻ってきて、ショーまで休む方がいいわね。

M: 僕もだ。ミュージカルはどれくらい？

W: 2 時間よ。

M: それじゃ、Chinatown の予約は 8 時半にしよう。

W: いいわね。その頃にはきっと腹ペコになってるわ。

M: その後はどこか行きたいかい？ Greenwich Village のジャズ・バーに行ってもいいな。

W: よさそうね。でもそれは明日決めてもいいわ。

M: それじゃ、Benito's に電話して、今夜 7 時半の予約をしてくれるかい？ 今 6 時半だから、出かける前にさっとシャワーを浴びて、シャツを変えるよ。長くはかからないから。

注.....

- ℓ. 2 ◇ For \$250 it ought to be. 「250 ドルもするのだから当然だ。(= It ought to be lovely since it costs as much as \$250.)」
◇ What a ridiculous waste of money. 「何という金の無駄遣いだらう。」
- ℓ. 3 ◇ Don't be like that. 「そんなふうには言わないで。」
- ℓ. 4 ◇ silver anniversary 「(結婚などの) 25 周年記念日」
◇ book ~ 「~ (部屋など) を予約する」
- ℓ. 6 ◇ how could they know … 「…ということがどうやってわかるのか」
- ℓ. 8 ◇ It isn't as though … 「…というわけではない」
- ℓ. 9 ◇ I'd have been just as happy with ~ 「~でも同じくらい嬉しかったのに」
- ℓ. 12 ◇ that's just the point 「そこが大事なことだ」

- ◇ something you would never treat yourself to 「自分では絶対に買わないようなもの」
- ℓ. 14 ◇ grouch 「不平屋；不満ばかり言う人」
- ℓ. 20 ◇ must have *done* 「…したに違いない」
 ◇ close down 「(店などが) 閉店する；つぶれる」
 ◇ What a shame. 「それは残念だ。」
- ℓ. 21 ◇ two and a half decades 「25 年間」 ※ a decade : 10 年間
- ℓ. 23 ◇ for the memories 「思い出に；なつかしいので」
- ℓ. 25 ◇ Peking something or other 「Peking 何とか (正確な名前が思い出せない時の表現)」
- ℓ. 26 ◇ ad = advertisement 「広告」
 ◇ five-star rating 「(階級・品質などを表す) 5 つ星の」
- ℓ. 28 ◇ feel like ~ 「～を食べたい気分だ；～したい気がする」
 ◇ go well with ~ 「～によく合う」
- ℓ. 30 ◇ Little Italy 「リトル・イタリア」(ニューヨークにあるイタリア系住民地区)
- ℓ. 34 ◇ take it easy 「ゆっくりする；リラックスする」
- ℓ. 35 ◇ Why don't we ...? 「…しませんか？」
- ℓ. 42 ◇ I'd rather ... 「(どちらかと言うと) …する方がいい」
- ℓ. 46 ◇ be ready for a big meal 「とてもお腹が空いている」
- ℓ. 51 ◇ I won't be long. 「長くはかからない。；すぐに戻ってくる。」

【6】

解答

- (1) e (2) b (3) c (4) d (5) c

解説

- (1) 本文中には、a～d の根拠となる記述は見当たらない。したがって、e を選ぶ。
- (2) まず ℓ. 1～2 から、Mr. Minter が迎えに来ていることがわかる。さらに ℓ. 2～3 から、彼の奥さんは迎えに来ていないと判断できる。ℓ. 38～44 の Mr. Minter と Jenny とのやり取りから、that house over there の主人が Mr. Minter であることは明らかである。したがって、b を選ばばよい。
- (3) ℓ. 4 にあるように、Mr. Minter と Jenny が乗り込んだのは a battered-looking station wagon である。ℓ. 11 の He didn't change gear very often ～などからも c が正解とわかるだろう。
- (4) ℓ. 34～35 の 1 文から、Mr. Minter と Jenny の前に a black-and-white sheepdog が飛び出してきたことがわかる。さらに、ℓ. 41～42 の Mr. Minter の言葉から、ここが目的地であることが読み取れる。したがって、正解は d。
- (5) 目的地は、もちろん Mr. Minter の自宅、つまり ℓ. 40 の that house over there — the white one であり、これは ℓ. 25 の a low, white-painted house in the distance である。ℓ. 26 の記述から、Mr. Minter の自宅は、c であることは明らか。

ミンター氏がホームで彼女を待っていると、列車がガタガタと音を立ててちっぽけな駅に入ってきた。彼は山高帽をとって、手を差し出し、彼女の荷物を持った。ジェニーは、彼の奥さんが駅に来るだろうかと思っていたが、彼女の気配はなかった。ミンター氏は、彼女をおんぼろのステーションワゴンへと案内して、にこにこ笑って言った。「旅の最後に馬車と馬を提供できればよかったです、あいにく、このおんぼろ車で間に合わせなければならぬんです。少なくとも馬車よりもちょっと早く家に着くでしょう。何しろ、丘をいくつか越えなければいけないんです。ローデール・トップ・ファームは、私が住んでいるところにピッタリの地名です。まさに、その名の通りの場所なのです。そこは浮世離れたところだとあなたは思うでしょう。」

駅が見えなくなる前から、道は上り坂になっていた。道幅が狭くなるにつれて、道は、険しい、草の生い茂った土手の間をくねくねと曲がりくねっていった。車は、運転手から受けている扱いに、音を立てて抗議していた。運転手は、さほど頻繁にはギアを変えず、変える場合でさえも、かなりでたらめなやり方であった。

「エンジンのことは、あまりわかりません。唯一わかっているのは、私がエンジン嫌いだということだけです。まあ、馬ならまったく問題なく扱えるんです。だから、このガタの来た車よりも、馬に乗っている時の方が安全に感じます。」とミンター氏は微笑みながら言った。

それがしばらくの間に彼が発した最初の言葉だった。ジェニーが景色を楽しんでいることに気付いたので、むやみに話しかけて彼女の邪魔をしたくなかったのである。話をする時間なら、家に着いてからたっぷりあった。彼は、彼女に両親のことや旅を楽しんでいるかどうか聞き、後は言葉をかけなかった。

その時2人は、はるか彼方に小高い山々がある、だだっ広い荒地にいた。ジェニーは、家が1軒も見当たらない地域が国内にあらうとは、想像したこともなかった。これは、自分が知っている町とはまったくの別世界であった。ひょっとすると、父親が「何もないところ」と描写したのは、的を射ていたかもしれない。

2人が荒地を後にして、羊が草を食べている草原のそばを走っていたその時、ジェニーは、遠くにある低い白塗りの家に気付いた。それは風雨から守られた位置で、丘の斜面にとまっているようであった。魅力的な建物で、近づくにつれて、それは彼女が思ったよりも大きいことがわかった。

「あそこで生活するのは、ちょっぴり寂しいんじゃないでしょうか。見えるところにご近所はいないし。こんな高地で雪が降ったら、数日間身動きが取れなくなるかもしれませんね。」と彼女はミンター氏に、その家を指し示して言った。

「ええ、確かにここでは雪は降ります。かなりの大雪になることもあります。この辺の人々は雪に慣れてしまうんですよ。あなたも慣れなければなりませんね。」と彼は答えた。

彼らは非常にでこぼこした農道のような脇道に入った。ステーションワゴンは、至るところで飛び跳ねていた。なぜならば、この時ミンター氏はこの道中で最もスピードを出していたからである。突然、黒白のぶちの牧羊犬が右側の牧草地を横切って、視界に飛び込んできた。犬は一瞬の躊躇もなく、低い自然石の石壁をハードル選手のように飛び越え、一目散に2人に向かって小道を疾走してきた。そして、2人の乗った車が近づく、彼らの視界に飛

び込んできたのとまったく同じように突然、その犬は横滑りしながら止まり、その場にとどまったまま激しく吠えていた。

「あなたのことを知っているようですね。」ジェニーは言った。

「そのはずです。うちの犬で、名前はレックスです。」とミンター氏は答えた。

「でも、あそこの白い家から来たみたいですけど。」とジェニーは言った。

「そのとおりです、ジェニーさん。あそこがレックスのすみかです。私の家でもあります。そしてそこが、あなたが暮らすために来たところです。」

一呼吸置いて、彼は言い添えた。「ジェニー・マートンさん、ようこそローデール・トップ・ファームへ。ここでとても幸せに暮らしてくれることを願っています。」

注

- ℓ. 1 ◇ as = during the time that; when; while
 - ◇ clatter = move quickly and noisily
 - ◇ tiny = extremely small
- ℓ. 2 ◇ bowler hat = a hard round black hat that business men sometimes wear
 - ◇ hold out = offer
 - ◇ case = a large box or container in which things can be stored or moved
- ℓ. 4 ◇ battered-looking = old-looking
 - cf. battered* = old and in poor condition because it has been used a lot
 - ◇ station wagon = a large car with a rear door and extra room in back for people or things
 - ◇ grin = smile widely
 - ◇ coach = a large carriage with four wheels, pulled by horses, used in the past for carrying passengers
- ℓ. 5 ◇ make do with = manage with something that is not really satisfactory
- ℓ. 6 ◇ buggy = a small cart or truck for short transportations of heavy materials
 - ◇ it'll get us home
 - it = this old buggy
 - ◇ a horse-drawn coach = a coach which is drawn by a horse
 - ◇ for one thing = used to give one reason for something
- ℓ. 7 ◇ a good name for where I live = a suitable name for where I live
 - ◇ It means what it says ≡ It means its character or qualities
 - It = Rowdale Top Farm
 - say : to show someone or something's character or qualities
- ℓ. 8 ◇ in the clouds = unrealistic
 - ◇ up there = 「あちらでは」
- ℓ. 10 ◇ twist = changes *one's* direction in a series of curves
 - ◇ steep = rising or falling quickly, not gradually; at a very sharp angle
 - ◇ grassy = covered with grass
 - ◇ bank = land along the side of a river or lake

- ◇ protest at = complain about; show disapproval of
- ℓ. 11 ◇ even when he did = even when he changed gear
- ℓ. 12 ◇ hit-or-miss = hit-and-miss; not done in a careful or planned way and therefore not likely to be successful; sometimes successful and sometimes not 「一か八か」
- ℓ. 13 ◇ except = other than, not including
 - ◇ remark = say; comment about
- ℓ. 14 ◇ than I do in this old banger
 - do = feel safe
 - banger = an old car that is in bad condition
- ℓ. 17 ◇ There was plenty of time for that
 - plenty of = a large quantity of
 - that = the talk
- ℓ. 20 ◇ open moorland now with hills in the far distance
 - moorland = wild open countryside covered with rough grass and low bushes and heather; moor
- ℓ. 22 ◇ her father was right in describing it as 'the middle of nowhere'
 - the middle of nowhere = a place that is a long way from other buildings, towns, etc
 - cf. in the middle of nowhere* = miles from nowhere
- ℓ. 24 ◇ alongside = next to; close to the side of
- ℓ. 25 ◇ graze = eat grass that is growing
 - ◇ in the distance = in the place that is far away, but close enough to be seen or heard
 - ◇ be perched = to be in a position on top of something or on the edge of something
- ℓ. 26 ◇ in a sheltered position = in a position that is protected from extreme weather condition
- ℓ. 29 ◇ they could be cut off for days
 - cut off = stop the supply for something to somebody
- ℓ. 31 ◇ get used to it = get accustomed to it; comfortable with it because it is familiar
 - ◇ You have to, don't you? = You have to get used to it, don't you?
- ℓ. 32 ◇ farm track = a narrow road with a rough uneven surface that such farm machinery as tractors, etc. can travel on
 - ◇ bumpy = flat but having a lot of raised parts so it is difficult to walk or drive on
- ℓ. 33 ◇ bounce = move up and down
- ℓ. 34 ◇ a black-and-white sheepdog came bounding into sight across the field to their right
 - sheepdog = a dog that is trained to control sheep
 - come into sight = to appear
- ℓ. 36 ◇ drystone wall = a wall built with pieces of stone that fit closely together and no cement

- ◇ hurdler = a person or horse that runs in the races over hurdles
- ◇ just as suddenly = just as suddenly as it came bounding into sight across the field to their right
- ℓ. 37 ◇ it skidded to a halt = it suddenly slid sideways and stopped
 - ◇ barking furiously 《分詞構文》
 - furiously = extremely angrily
- ℓ. 39 ◇ He should do = He should know me
- ℓ. 41 ◇ That's (the place) where he lives
 - ◇ And that's where you've come to live.
 - to = in order to
 - この come to live は come to … (= begin to …) ではない点に注意。

添削課題

解答例

A strange man who isn't wearing any clothes is smoking on a plane. The passenger sitting behind him complains to the flight attendant about the smoke, but she says nothing to the naked man about his peculiar and offensive behavior. He is quite relaxed and content reading his paper and puffing on his big cigar. In fact, he doesn't have any worries at all. He is the owner of the airline and doesn't even have to pay for the flight. [80 words]

解説

- There were some interesting explanations of the scene, including the suggestion that he is wearing clothes that only honest people can see. Therefore, he appears naked to everyone else.
- Using *one's* imagination is important in this sort of writing, but make sure to leave yourself a couple of minutes to check what you have written and correct the grammar and spelling.
- *Flight attendant* is preferred over *stewardess* to avoid gender bias.
- *Put on* refers to the act of getting dressed; *take off* refers to undressing. For example, you *put on* clothes in the morning, you wear them all day, and you *take* them *off* before getting a bath.
- *He doesn't wear any clothes* refers to customary activity, meaning he never wears clothes. *He isn't wearing any clothes* refers to the present situation.